

第1回地方版図柄入りナンバープレート制度検討会 議事概要

1. 日時：平成27年8月27日（木）15時00分～18時00分
2. 場所：国土交通省特別会議室（中央合同庁舎第3号館11階）
3. 出席者：杉山委員、石田委員、川端委員、松田委員、味水委員、矢ヶ崎委員、山根委員
4. 議事（概要）
 - (1) 資料1の設置要領に基づいて「地方版図柄入りナンバープレート制度検討会」を置くこととし、座長として杉山委員が選任された。
 - (2) 資料2の「地方版図柄入りナンバープレートについて」の説明後、各自治体からヒアリングを行い、その後議論を行った。

（委員からの主な発言）

＜資料2における検討事項③（提案された図柄の選定基準について）＞

- 地方版図柄入りナンバープレートは地域の創意工夫を生かし、地域活性化をするためのものである。そのため、原則自由とし、これだけは困るというものだけ制限するような形にした方が良い。検討事項③（提案された図柄の選定基準）は非常に抑制的で原則自由であるため、賛成である。
- 野球やサッカーチームのロゴ等は、民間企業的な団体としても、地域から受け入れられているものであれば、認める余地もあるのではないかと。
- ナンバープレートは番号を表示することが一番の役割だと思うので、視認性は重要である。

＜資料2における検討事項④（一地域から提案される図柄の数について）＞

- 図柄の数について、一つに絞るというのはなかなか難しいと感じる。地域毎に2、3種類から選択可能とすることもありうるのではないかと。
- 交付枚数が少ないと製造コストが高くなってしまい、交付手数料が高くなってしまふと思われる。デザインを複数種類作成するのもありかもしれないが、コストを下げるにはある程度の交付枚数が必要となるので、実現性を考えるとある程度デザイン数の縛りがあっても仕方がない。
- 地域の方々は複数デザインを導入したいとの希望があることがわかったので、データ等により費用対効果を検証し、判断していきたい。

<資料2における検討事項⑥（寄付金を充てる事業の範囲の考え方について）>

- 寄付金の使途について、自動車ユーザーからの寄付金であるため、自動車関係、道路、環境に使うというところが非常にわかりやすいが、地域の方々は観光振興に使いたいという思いもあるので、そのギャップを認識しながら制度設計を考えていかなければいけない。
- 寄付金がどのように使われるかについて、自動車ユーザーが納得するようなしっかりした説明が必要である。
- アメリカでは寄付文化が浸透しているので、ナンバープレートで寄付をしたことをアピールできる点にメリットを感じているように思われるが、日本では使い道を非常に気にすると思われる。その点で、観光振興というように広く捉えるのではなく使途をはっきりさせた方が良い。交通遺児に対する教育等の支援や、公園整備などの環境保全の視点も重要と思われる。
- 寄付金の使い道について、寄付者の気持ちが尊重されていれば自由で良いのではないか。ただし、どのくらいの事務的なコストがかかるのかについて、域外にナンバープレートを発行することも加えてその辺の事務的な実行性が一つのポイントになるのではないか。

<地方自治体の意見に対する考え>

- 安全の講習を受けた人に図柄入りナンバープレートを交付というのもありうと思われる。
- 地方の意見にあった、圏外の方に地方版図柄入りナンバープレートを使用していただきたいとの意見について、ナンバープレートというのは基本的に車を取得することと同時に車庫証明等が必要となるものなので、圏外の方々も使用できるという議論は少し難しいと思われる。
- 図柄の決定プロセスについて、複雑になりすぎないようにしなければいけない。

<まとめ>

- 制度としては自由度を高くすべきであるが、視認性の確保や、複数の図柄選択、どのくらいの申請数が出てきて、どのくらいのコスト増、時間がかかるようになるのかについて、整理していただき、その上で議論していきたい。

（以上）